

言語・文学分野の参照基準検討分科会（第3回）議事要旨

1. 日時 平成23年4月22日（金） 13:00～15:00
2. 場所 日本学術会議5階 5-A会議室(2)
3. 出欠 （出席17名） 庄垣内委員長、塩川副委員長、柴田（翔）幹事、鳥飼幹事、小野委員、加藤委員、川合委員、川嶋先生、北原委員、田口委員、寺田委員、長島委員、林委員、平田委員、福井委員、藤本委員、山川委員
（欠席1名） 柴田（元）委員
4. 議事
 - (1) 開会
 - (2) 事務局から人事異動のご挨拶（中澤参事官）
 - (3) 前回欠席委員の自己紹介（川合委員）
 - (4) 言語・文学分野の参照基準の策定について
 - ① 柴田（翔）幹事からの話題提供
 - 「日本の展望 分野別委員会報告書「言語・文学分野の展望—人間の営みと言語・文学研究の役割—」（資料4）により、言語研究・文学研究の本質及び日本語教育の在り方についての説明があった。
 - ② 塩川副委員長からの話題提供
 - 「言語・文学分野の参照基準 論点メモ」（資料6）により、議論の前提及び今後の議論の方向性と要点についての説明があった。
 - ③ 意見交換
 - 我々は資料5の概念図のように考えている。「言語・文学」という幹があり、その上に「言語」、「文学」、「X」という枝がある、「X」には映像や漫画などが入り、違う根っこを持つものもある。まずはその「幹」のところから考えたい。
 - ひと月に1回程度の頻度で会議を行い、1年を目途に完成をさせる予定だが、まずは3回くらいかけて幹の部分について考える。次回の話題提供者として山川委員と川合委員にお願いしたい。それぞれの立場からこの幹の部分がどう見えるか、あるいは抜けているかなどについてご提示して頂きたい。
 - フランスでは他分野の学生が外国語に主軸を置いて履修するシステム（応用外国語）でディプロマを取得する形が良くみられる。外国語を理解することで自分の専門に対する理解が深まるという考え方。
 - 応用外国語を推奨するということは、逆に効率重視という発想になり文学研究は必要ないという議論になる危険性もある。
 - 第二外国語は必要ないという意見は多い、理工系では必須科目が多いため、また教養課程であるがために基礎力が身に付かないという理由もある。

- 教養教育としての英語教育と専門課程を結びつけない限り実行が上がらないという弊害は大学側でも認識していて、改善の動きも出てきているが、本質的には複数言語を学ぶ意義をきちんと立てなければそれは難しい。
- 英語は国際共通語であるので文化的負荷をなるべく減らし、外国語教育の対象から外せば良い。英語以外の外国語教育を行うべき。
- 今までと同じような複数外国語教育を復活させるということではなく、今までとは違う意味を持つ、「異文化を覗く窓」として必要だと考える。技術ばかりではなく教養も必要。
- 外国語教育に対する考え方を変えることができれば、学習困難大学でも複数外国語教育は可能。
- 複数外国語教育の復活は一義的には参照基準とは関係ないが、その精神は盛り込まなければならない。
- 国語力というのは論理性ではなく相手に応じて冗長率を操作できる能力なのではないか。この視点は言語学にも日本語教育にもほとんどない。
- 公共的言語は日本には元々なかった。それは自然発生的に生まれるものではなく、教育によって生み出していくべきもの。
- 日本文化全体が対話的な言語ともいえる。グローバリゼーションによりそれだけでは対応しきれなくなり、公共的言語が必要になってきた。
- 外国では言語を統一する際、激しい闘争が起こっているが、日本にはそれが必要なかったために明治期に短時間に共通語に似たものができた。しかしそれに甘えず、背景を別にしている説明できるような日本語が必要である。
- 日本の文学的なものは情緒を読み取る場所に重きを置き過ぎていて、論理的に伝える言葉の教育ができていない。機能的に言葉を使えるように教育をするべき。また事実と他人の意見と自分の意見をきちんと峻別させるという教育も必要。
- 参照基準には具体的にどういう社会人が育てられるかという観点もある程度盛り込んでおく方が良い。
- 新たな必要が生じたためにその能力が学生に足りないのか、それとも昔の学生は持っていたのにその能力が落ちてきたのかということは大きな違いであり、しっかりと議論して頂きたい。
- コミュニケーションのタイプが変わったのであり、能力は落ちていない。
- 言語は社会のあり方と結びついている、社会背景が変わったためにコミュニケーション能力について問題が顕在化してきた。コンテキスト依存型ではなくユニバーサル型のコミュニケーション（公共的言語）能力が求められる。それは他者に対してきちんとした言葉でメッセージを発する能力である。